

自殺に傾いた人への電話相談支援 ～若者のこころの特徴と対応～

電話相談や相談窓口等で、さまざまな生きづらさを抱え、自殺に傾いた人と出会う機会がありますが、落ち着いて適切な対応をするには、知識や相談スキルを身につける必要があります。

本研修では、若者のこころの特徴を理解し、電話相談におけるリスクアセスメント、傾聴と共感等、相談支援の基本的コミュニケーション技法を学びます。

また、演習やロールプレイ等を通して、効果的な相談スキルを身に付け、日々の相談場面での対応力の向上をめざします。

日時

令和7年8月5日（火）10時～17時

場所

ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）
5階 特別会議室
（大阪市中央区大手前1丁目3-49）

内容

○講義・電話相談と面接相談の違い

- ・「聴くこと（傾聴）」とは
- ・基本的対応とリスクアセスメント
- ・援助（共感）的コミュニケーション技術
- ・若者のこころの特徴について

○演習

- ・反復
- ・声のトーン
- ・オープンクエスチョン、クローズドクエスチョン
- ・反射
- ・明確化

○ロールプレイ

- ・リスクアセスメントの対応事例

○グループワーク



講師

関西福祉科学大学大学院 教授
関西福祉科学大学社会福祉学部 学部長 都村 尚子 氏

対象

大阪府内（大阪市・堺市を除く）の保健所・保健センター、市町村の保健・福祉関係部署で、精神保健福祉業務を含む相談支援業務に従事する職員
大阪府内の高・中等教育学校・支援学校（大阪市立・堺市立を除く）、大学、専修・各種専門学校等、教育機関の職員 [定員：40名]

申込み

こころのオアシス(<https://kokoro-osaka.jp/>)→研修→自殺対策研修→J-3

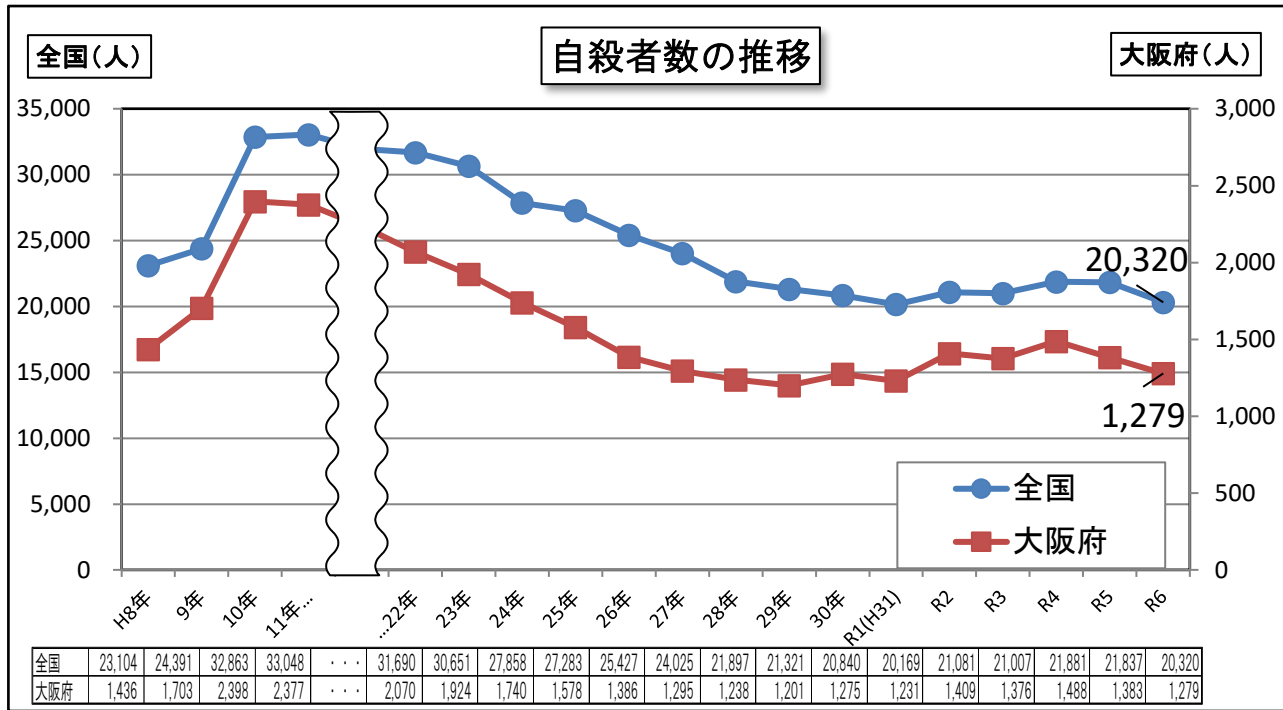


申込み締切：令和7年7月22日（火）17時まで [申込みフォームはこちら](#)

※申込み締切後に、当センターよりメールで「受講決定通知書」を送付します。

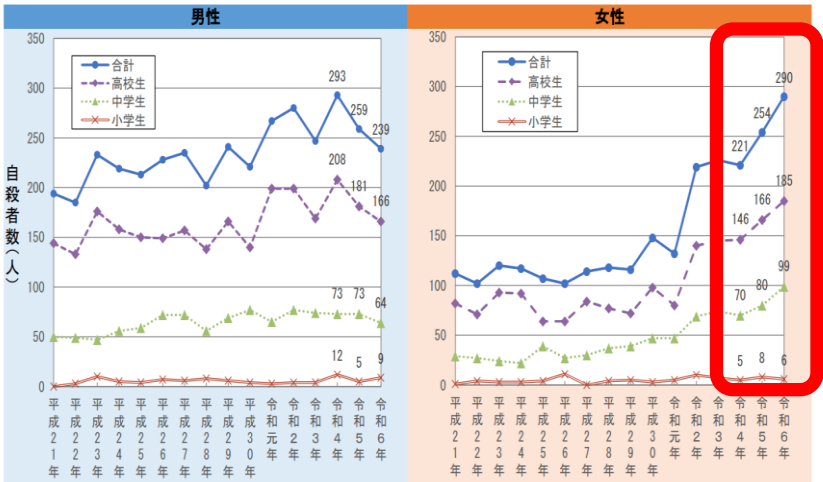
※1機関より複数参加申込みのあった場合は人数調整をする場合があります。

大阪府の自殺の現状



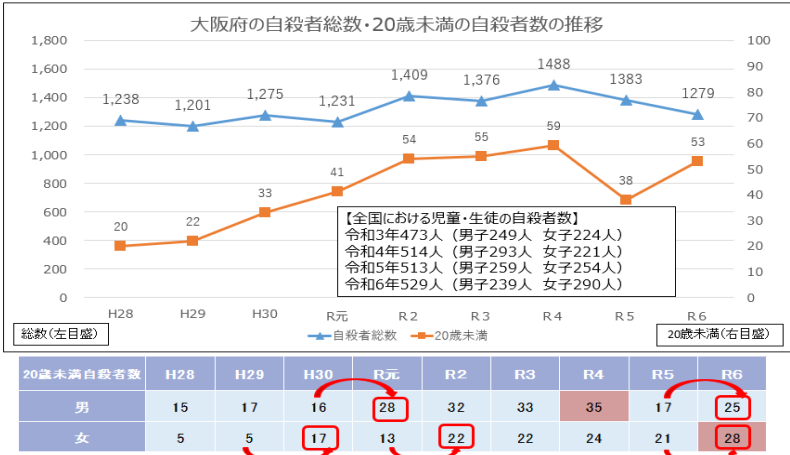
全国の自殺者数は令和 2 年に 11 年ぶりに増加し、令和 6 年は前年より 1,517 人減少して 20,320 人でしたが、令和 2 年以前の状況には戻っていません。
 大阪府の自殺者は令和 2 年に増加し、令和 6 年は前年より 104 人減少して 1,279 人となりましたが、1 日に約 4 人の方が亡くなられている状況です。

全国の小中高生別、性別自殺者数の年次推移



令和 6 年全国の小中高生の自殺者数は 529 人で過去最多となりました。
 男女別では女性が右肩上がりで増加し、中学生、高校生の女性とともに前年より 19 名増加しました。

大阪府における20歳未満の自殺の状況



大阪府の20歳未満の自殺者は平成 29 年以降右肩上がりで、令和 5 年は 38 人と減少しましたが、令和 6 年は 53 人で高止まりの状況が続いています。

若者の自殺は遺族や社会への影響が非常に大きいことから、若年層への対策は特に重要で、関係機関が連携し必要な取組みをきめ細かに実施することが必要です。

出典：厚生労働省自殺対策推進室作成「地域における自殺の基礎資料 発見日・発見日、令和 6 年中における自殺の状況」